

研究班活動報告書

2021年度 関西ファミリービジネスのBCMと東アジア戦略研究班の研究活動結果を、次のとおり報告いたします。

研究テーマ	ポスト・コロナ時代の関西ものづくりファミリービジネス(FB)による BCM (事業継続マネジメント・事業承継) と東アジア戦略
研究成果の概要及び活動報告	<p>学会・研究会参加、発表および講演</p> <p>亀井克之 1) 「Covid-19 時代のリスクマネジメント」 東アジア文化交渉学会、於：二松学舎大学、2021年5月8日、パネルチェア。 2) 「日本拳法に学ぶリスクマネジメント」、東アジア文化交渉学会、於：二松学舎大学、2021年5月8日、発表。 3) 「フランスにおける事業承継・ファミリービジネス 研究の新潮流」、関西大学経済・政治研究所第246回産業セミナー、関西大学梅田キャンパス、2021年9月4日 4) 「事業継続とリスクマネジメント」、於：関西大学梅田キャンパス、関西大学・経済政治研究所関西ファミリービジネスのBCMと東アジア研究班 講演会、2021年9月29日、講演</p> <p>林 能成 「関西ファミリービジネスの BCM と東アジア戦略」、総合司会、関西大学政治・経済研究所第246回産業セミナー、関西大学梅田キャンパス、2021年9月4日</p> <p>上田 正人 「関西ファミリービジネスの BCM と東アジア戦略」、第二部司会 関西大学経済・政治研究所第246回産業セミナー、関西大学梅田キャンパス、2021年9月4日</p> <p>上野 恭裕 「堺市における伝統産業の経営戦略」、関西大学経済・政治研究所第246回産業セミナー、関西大学梅田キャンパス、2021年9月4日。</p> <p>堀越 昌和 1) 「中小企業とBCP—東日本大震災からCovid-19パンデミックまで—」日本リスクマネジメント学会、第46回全国大会（オンライン開催）、2021年9月22日 2) 「地方における中小企業の事業承継施策～山口県の事例～」日本中小企業学会、第41回全国大会（オンライン開催）、2021年10月9日、稲葉和也、堀越昌和（討論者） 3) 「コロナ禍だからこそもう一度、考えたい BCP」広島県中小企業家同友会福山支部、堀越中小企業家ゼミ（第1回）、2021年12月17日 4) 「事業承継に活かす事業の魅力づくり」広島県中小企業家同友会福山支部、堀越中小企業家ゼミ（第2回）、2022年1月27日</p> <p>延東 晃 1) 「Covid-19時代のリスク情報の開示」第13回東アジア文化交渉学会、於：二松学舎大学（動画発表）、2021年5月8日 2) 「有価証券報告書の制度改定が企業の調達リスク開示に及ぼす影響」、日本リスクマネジメント学会第46回全国大会、オンライン開催、2021年9月23日</p> <p>顔 龍龍 1) 「Covid-19時代のリスクマネジメント」 東アジア文化交渉学会、於：二松学舎大学、2021年5月8日、コメント。 2) 「辛亥革命后湖北政府对日借款始末 以日方档案中的黎元洪与西泽公雄的交涉为中心」、東アジア文化交渉学会、於：二松学舎大学、2021年5月8日、発表。 3) 「民初日本海军陆战队驻扎大冶铁矿始末—以日藏档案史料的考察为中心」、2021年東アジア院生フォーラム、於：関西大学、2021年12月16日、発表。</p>

著書	<p>亀井克之 『日英仏 日本拳法の基本習得教書 日本拳法に学ぶリスクマネジメント』関西大学出版部、2021年10月刊</p>
分担執筆・論文等	<p>亀井克之 1) 「現代企業におけるリスク情報開示の意義」 上田和勇編著『復元力と幸福経営を生むリスクマネジメント』同文館出版、2021年12月、第1章、36-52頁。 2) 亀井克之、金子信也、栗岡住子、オリビエ・トレス、影浦ちひろ「コロナ禍における中小企業経営者の健康—第二波時2020年8月調査と日仏比較—」『商工金融』商工総合研究所、2021年9月号、42-65頁</p> <p>林 能成 「南海トラフ地震情報を使った防災対応上の潜在的課題群の抽出法の開発—ゆっくりすべりケースに対するテレビ報道を例に—」、『日本地震工学会論文集』, vol.21, p.2_34-2_56, 大谷竜・兵藤守・林能成・橋本学・堀高峰・川端信正・隈本邦彦・岩田孝仁・横田崇・谷原和憲・入江さやか・福島洋, 2021年6月。 上田 正人 1) 解説 バイオマテリアルの知見・技術を利用したサンゴ礁再生、バイオマテリアル-生体材料-、39(2021)182-187 2) 解説 結晶のキャラクタリゼーション、バイオマテリアル-生体材料-、40(2022)52-57</p> <p>上野 恭裕 上野恭裕・曾根秀一、「伝統産業におけるファミリービジネスの競争優位：日本とドイツの刃物産業の事例研究」『関西大学社会学部紀要』、2022年3月、掲載予定。</p> <p>堀越 昌和 1) 「コロナ禍における中小企業経営者の健康—第二波時2020年8月調査と日仏比較—」（亀井克之、金子信也、栗岡住子、オリビエ・トレス、影浦ちひろ、尾久裕紀、堀越昌和）『商工金融』第71巻、第9号、商工総合研究所、pp.42-65、2021年9月刊。 2) 「「2021年 新型コロナウイルス感染症の影響に関するアンケート調査」結果報告」（堀越昌和）『経営研究』、福山平成大学、2022年3月（印刷中）。 3) 「中小企業とBCP—東日本大震災からCovid-19パンデミックまで—」（堀越昌和）『危機と管理』、日本リスクマネジメント学会、2022年3月（印刷中）。</p> <p>延東 晃 Endo, A. and Kamei, K. (2022) 'An exploratory study on procurement risk management in Japanese manufacturing companies', Int. J. Procurement Management, Vol. 15, No. 1, pp.1-19.</p> <p>顔 龍龍 1) 「在私人交谊与国家利益之间 井上馨与盛宣怀围绕汉冶萍问题交涉始末」『近代史学刊』第25辑, 華中師範大学, 109-125 ページ, 2021年10月刊。 2) 「民初日本海軍陸戦隊駐紮大冶鉄礦始末」『東アジア文化交渉研究』第15号, 関西大学大学院東アジア文化研究科, 掲載予定, 2022年3月刊。 3) 「辛亥革命后湖北政府对日借款始末 以日方档案中的黎元洪与西泽公雄的交涉为中心」『南開日本研究』第26号, 南開大学日本研究院, 掲載予定, 2022年6月刊。</p>
新聞・メディア掲載その他	<p>林 能成 「大阪北部地震3年 鉄道各社 早期再開の対策 状況確認にアプリ活用」『読売新聞（2021年6月14日付）』</p> <p>堀越 昌和 1) 「コロナ禍 資金繰り影響アンケート」『中國新聞社『中國新聞』（2021年7月21日）（堀越昌和）。 2) 「備後の中小企業コロナ影響」『山陽新聞社『山陽新聞』（2021年8月14日）』（堀越昌和）。 「中小企業の事業承継」『備後レポート社『びんご経済レポート』No.2137、p.9（2021年8月）』（堀越昌和）。 3) 「中小企業とBCP」『備後レポート社『びんご経済レポート』No.2143、p.9（2021年10月）』（堀越昌和）。</p>

	<p>4) 「中小企業の事業承継」『中國新聞社『中國新聞 SELECT』第 1932 号、p.1 (2021 年 10 月 8 日) (堀越昌和)。</p>
<p>調査等</p>	<p>亀井克之 関西大学学術研究員として 2021 年 10 月 2 日から 12 月 25 日までパリ第 1 大学ビジネススクール・Didier Chabaud 教授の下で、フランス・パリで在外研究。</p> <p>上田 正人 1) 科研費基盤 B、半導体表面で細胞が示す光応答の機序解明とその鋭敏化; 多種細胞 3D 光造形への展開、代表 2) JST SCORE GAP、ポリブを起点としたサンゴの高効率増殖による二酸化炭素の固定化、代表 3) 科研費学術変革研究 A、超温度場材料創成学:巨大ポテンシャル勾配による原子配列制御が拓くネオ 3D プリント、計画班</p> <p>堀越 昌和 1) 2021 年 12 月 20 日、産官学連携準備、兵庫県行政書士会及び兵庫県中小企業家同友会 (共に兵庫県神戸市)、① 2) 同 12 月 21 日～22 日、産官学連携準備、滋賀県中小企業家同友会 (滋賀県南草津市) 及び京都中小企業家同友会 (京都市)、①</p>
<p>活動内容の総括</p>	<p>コロナ禍の現在、我が国の経済・政治に突き付けられた課題は「世界第 2 位の経済大国である中国と今後も上手く取引しつつ、コロナ禍が浮き彫りにした中国集中リスクについてどのように対処し、事業を継続・承継して東アジア戦略を展開するか」ということにある。このことを研究し社会的な提言を行うことが本研究班の目的である。</p> <p>1 年目の今年度は文献調査をベースに、関西におけるものづくりファミリービジネスの訪問調査やコロナ禍後の事業継続マネジメント、サプライチェーンに関する調査、ファミリービジネスの事業承継に関する調査などを行ってきた。コロナウイルス感染症の拡大により、現地調査など十分な調査ができなかったが、オンライン調査などを併用し、研究活動を実施した。</p> <p>まず基本的な活動として定例研究会を 2 回実施した。第 1 回目は 2021 年 4 月 21 日 (水) 11 時～12 時に「関西 FB、BCM、東アジア戦略への学際的アプローチ」をテーマとして Zoom によるオンラインで実施し、研究班のメンバー全員が参加した。本研究会では、本研究班のテーマに対して、研究員がどのようなアプローチができるかについて、各研究員が各自の研究テーマについて概略を述べる形でプレゼンテーションを行った。その後、ディスカッションを行った。本研究班の研究活動に関するベクトル合わせを行うとともに、今後の研究班の研究活動について検討した。</p> <p>第 2 回目は 2021 年 8 月 23 日 (月) 15 時～16 時 10 分、Zoom によるオンライン開催で実施した。体調不良により参加できなかった研究員はいたが、フルタイムの大学教員の研究員は全員参加した。本研究会では、9 月 4 日の産業セミナーに向け、本研究班の研究課題を確認し、現実の企業の現場で、ファミリービジネスの組織、ファミリービジネスの事業継続と事業承継、東アジアに進出がどのように行われているかについて、実際の企業経営者 2 人にお話を伺い議論を行った。9 月 4 日の産業セミナーの内容を洗練化すると共に、研究班の研究活動のベクトル合わせを再度することができた。</p> <p>定例研究会以外の成果として 2021 年 8 月 4 日 (水) に関西大学経済・政治研究所公開セミナー「WITH コロナ VUCA 時代に挑む中小企業」(大西正曹、同友館) 出版記念講演会を実施した。講演 1 として関西大学名誉教授の大西正曹氏の「VUCA 時代に挑む中小企業」出版記念講演を行い、講演 2 として大阪技研株式会社元代表取締役社長大出竜三氏の「『ブレーキを踏めず、ハンドルも切れない国内企業』-元経営者が語る自動車業界の真実-」を実施した。</p> <p>2021 年 9 月 4 日 (土) には関西大学梅田キャンパス 8 階大ホールにて 2021 年度産業セミナーを「コロナ時代の関西企業による経営戦略」をテーマに実施した。第 1 部では「フランスにおける事業承継・ファミリービジネス研究の新潮流」を亀井克之主幹が、「堺市における伝統産業の経営戦略」を上野恭裕研究員が講演した。第二部では「関西ファミリービジネスの経営戦略」をテーマに豫洲短板産業株式会社代表取締役の森晋吾氏に「豫洲短板産業の経営戦略」と題してご講演いただき、森興産株式会社 代表取締役森隼人氏に「森興産の経営戦略」と題してご講演をいただいた。終了後、ディスカッションを行い、コロナ時代の経営戦略についての多くの知見を得ると同時に社会に向けて情報発信を行った。</p> <p>続いて 2021 年 9 月 29 日 (水) 18 時 30 分から 20 時まで、関西大学梅田キャンパス 8 階 ホールにて、関西大学経済・政治研究所「関西ファミリービジネスの BCM (事業継続・事業承継) と東アジア戦略研究班」講演会「事業継続とリスクマネジメント」として『日英仏 日本拳法基本習得教書 -日本拳法に学ぶリスクマネジ</p>

	<p>メント』(関西大学出版部亀井克之著)出版記念講演会を実施した。BCM(事業の継続・承継)とリスクマネジメントについて、新しく出版された本に基づいて、亀井教授が講演した後、1932年に関西大学で誕生した日本拳法と、1978年に関西大学で学会が創設されたリスクマネジメント研究を題材にして、参加者とディスカッションを行った。</p> <p>このような研究班の活動に関連し、2021年9月16日(木)フェニーチェ堺(堺市民芸術文化ホール)小ホールにて、2021年度堺市と関西大学との地域連携事業である「堺市ファミリービジネス・外食企業の事業継続と事業承継」の成果報告イベントが行われたが、当研究班が後援を行い、司会を亀井研究員が担当した。第一部は「コロナ危機をのりこえる・堺市から元気を」と題して南海グリル社長の西浦結香氏にご講演をいただいた。同社は産地と連携し安全で安心な宮崎牛ステーキを目の前で焼く人気のスタイルで人気を得ているが、事業をいかに承継し、いかにコロナ禍をのりこえてきたのか、元気の出る今後の経営戦略はどのようなものか、お話を伺った。第二部は「危機をのりこえる・地域社会から元気を」と題して、映画「にしきたショパン」上映会を行った。映画は阪神大震災と局所性ジストニアにより未来を奪われたピアニストが危機を乗り越える物語で、上映後は沼光絵理佳氏のピアノ演奏とプロデューサー近藤修平氏と竹本祥乃監督によるトーク会を実施した。第一部・第二部ともに関西大学社会安全学部教授の亀井克之研究員が司会を務めた。</p> <p>また3月25日(金)にもZoomを利用したハイブリッド開催で研究会を実施する予定である。顔龍龍研究員の司会により、陶徳民関西大学文学部教授に「最新中国事情 ロシア危機が中国企業に及ぼす影響・日米欧企業の東アジア戦略に及ぼす影響」の演題でお話いただく予定である。</p> <p>これらの活動により当研究班の今年度の計画は順調に達成されていると考える。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">次年度に向けての計画・展望</p>	<p>研究班活動の2年目となる2022年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により実施できなかった現地調査を中心に行い、当研究班の目的達成を目指す。具体的には関西ものづくりファミリービジネスの東アジア支社や工場の訪問調査を行い、東アジア戦略の実態を把握することに努める。それらの成果を6月15日に予定されている産業セミナーや講演会で報告すると同時に、関西ものづくりファミリービジネスの事例に関する「研究双書」としてまとめていく。また社会的提言として「関西ものづくりFBの魅力」、「事業承継のあり方」、「事業継続マネジメントのあり方」、「コロナ禍の東アジア戦略」、「東アジア戦略・サプライチェーンをどう見直したか」、「中国集中の解消・日本や他国への分散は必要か、可能か」などが行えるように議論を重ね、第2期の研究期間の準備を行う予定である。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>